

会窓同大ス武大平大給土国の中世

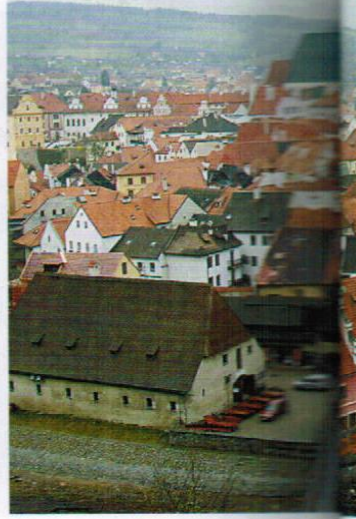


▲「ホイリゲ」と呼ばれる店の一室を貸しきって60周年祝賀会を挙げる



▲「ホイリゲ」と呼ばれる店の一室を貸しきって60周年祝賀会を挙げる

▲ウィーンの「クアサロン」でクラシックを鑑賞



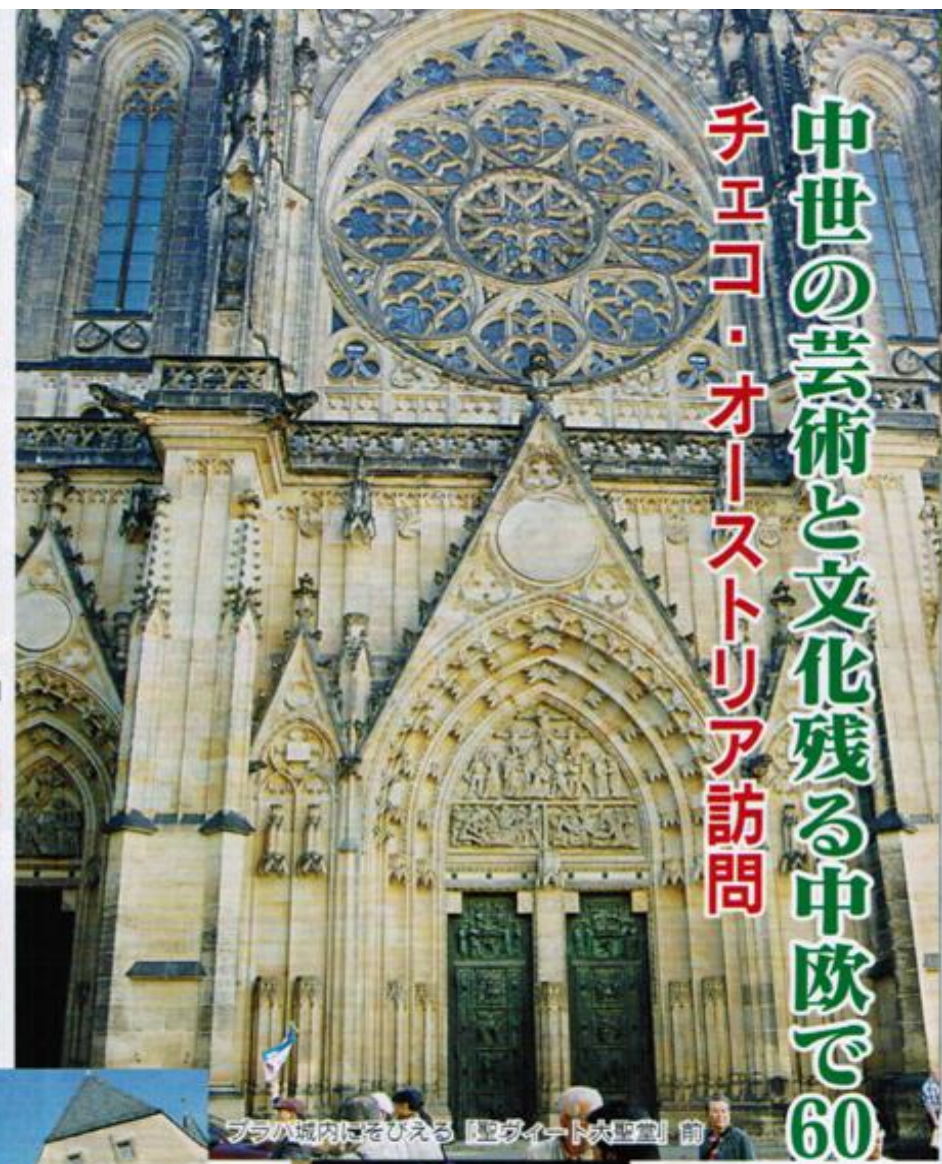
▲チェコとオーストリア国境にある「チェスキークルムロフ」の街は古き良きチェコの風景が広がる



▶現在はチェコの大統領が観光客を執る場所のプラハ城内だが自由に見学できる



▶1班はメンパー、カルルシュティン城をバックに見学



中世の芸術と文化残る中欧で60周年を祝う
チエコ・オーストリア訪問
三津野建設



▶プラハ市内にそびえる「聖ヴィート大聖堂」

総合建設業の(株)三津野建設(熊本市東区健軍本町、西尾剛人社長)は4月13日から2班に分かれ、創立60周年を記念した中欧への海外研修を実施した。

訪問したのはチエコ・プラハとオーストリア・ウィーン。成田からドイツ・ミュンヘンを経由し約16時間かけてプラハに到着した。翌2日目は、まずプラハのシンボル「プラハ城」へ。城内には14世紀に着手し、年月をかけて改築を繰り返して建造されたゴシック様式の「聖ヴィート大聖堂」がそびえる。巨大な教会を彩る装飾や、長い時代を経てもなお屈強に立ち続ける構造などに感心し「建設機器や資材が整っていない時代だからこそ、これだけのものを造るのは想像がつかない」「現代では建設費だけでも相当なもの」と感慨を話しながら見入っていた。その後ウルタバ(モルタウ)川に架かるヨーロッパ最古の石橋「カレル橋」を渡り、世界遺産に登録されている旧市街一帯を見学。建物の建て替えや外装のリフォームなどは制限されており、数百年前とそのままの姿の建物を見て回った。

午後にはプラハ市内から1時間程度の所にあるボヘミア古城へ足を伸ばした。チエコ全体で200以上、ボヘミア地方には100近い城が残っていると聞かれており、その中の「カルルシュティン城」を見学。王家の財宝などが保管されていたその城は、切り立った崖の上に立ち上る塔やレストランが並ぶ緩やかな坂を登って入城。公開されている部屋の中には、意外と質素なダイニングなども再現されており、当時の生活様子を垣間見ることができた。

3日目はチェコとオーストリアの国境付近にあるチェスキークルムロフに立ち寄った後、バスでウィーンへ。夜はヨハン・シュトラウスも自らの楽団に指揮したとされる由緒ある「クアサロン」でクラシックコンサートを鑑賞。モーツァルトとシュトラウスの曲やオペレッタなどのプログラムで、旅の夜のひと時を楽しんだ。4日目は、5日目はウィーン市内を観光。ハプスブルク家の夏の離宮のシエーンブルン宮殿やベルヴェデーレ宮殿のほか、市内に鎮座するシュテファン寺院、王宮などを見学した。

また、4日目の夜はワイン農家が発祥の「ホイリゲ」と呼ばれる飲食店の一室を貸し切り、60周年記念のパーティーを挙げる。西尾社長は「多くのお客様に支えて頂き、様々な指標で一定の評価を得られるまでになった。これまで先輩が育んだつぼみを、開花させるのはここにいる君たちの役割。強い会社づくりを目指し、社会に貢献する会社を築いていこう」とあいさつした。パーティーではアコーディオンとバイオリンの生演奏もあり、ワインと歌で60年の節目を祝った。

(企画開発部 横山全)



▲即興の歌などで会を盛り上げた



▲2班は風ね好天に恵まれた。ウィーンのベルヴェデーレ宮殿



▶オーストリア美術史博物館はハプスブルク家が収集したものと様々な芸術品が展示してある



▲西尾社長は「多くのお客様に支えて頂き、様々な指標で一定の評価を得られるまでになった。これまで先輩が育んだつぼみを、開花させるのはここにいる君たちの役割。強い会社づくりを目指し、社会に貢献する会社を築いていこう」とあいさつした。パーティーではアコーディオンとバイオリンの生演奏もあり、ワインと歌で60年の節目を祝った。

(企画開発部 横山全)

錦ヶ丘のゆうしんビル内に小規模多機能ホーム開設

ゆうしん

健康タクシーなどを運営する麻生グループの(有)ゆうしん(熊本市東区錦ヶ丘、麻生伸一社長)は5月1日、同地のゆうしんビル内に小規模多機能ホーム錦ヶ丘(小規模多機能型居宅介護事業所)を開設した。

場所は通称自衛隊通り沿い、「サンパレス熊本」南側。昨年9月に完成した高齢者向け複合多機能施設「ゆうしんビル」の2階部分に開設した。登録定員は25人で、デイサービスと訪問介護を提供。利用者の宿泊室9室を備えている。床面積は240㎡。また、同施設の3、4階は40床の特定施設シエ

スタ錦ヶ丘を併設している。

麻生社長は「当施設は通所を中心に訪問、宿泊の3つのサービス形態が一体になり、24時間切れ間なくサービスを提供できる。12年4月から改正された介護保険の動向にも注目し、高齢者に対してより細やかな生活支援を行っていきたい」と話している。

同社は1990年設立。「小規模多機能ホーム錦ヶ丘」「特定施設シエスタ錦ヶ丘のほか、在宅介護事業、ホームヘルパー養成事業、熊本市野中3丁目の「グループホームゆうしん3丁目」などを運営している。



▲錦ヶ丘のゆうしんビル内に開設した「小規模多機能ホーム錦ヶ丘」



▲最大25人収容可能なダイニング施設



▶ゆとりを持った個室

石の技能士最高位「石匠位」に認定

あらき石材 荒木 正人 社長

(有)あらき石材(熊本市東区健軍2丁目)の荒木正人社長は今年2月、経産省公認の全国石製品工業協同組合連合会が認定する石の技能士最高位「石匠位」に認定された。石匠位は、石の一般技能士を取得し、10年以上の実務経験、組合からの推薦が必要で、今年1月に大阪で開催された試験と面接に合格し、認定を受けた。荒木社長は「これからも石の技能士として技術向上に努めると共に、石工業の発展と業界の社会的評価の向上に寄与していきたい」と抱負を語る。

報発信にも力を入れている。現在、同社がまとめた「失敗しないお墓づくり」の本を希望者に無料配布するほか、昨年からお墓づくりに関する講演会やお墓の構造見学会などを企画。「失敗しないお墓づくりのために正しい情報を発信したい」と話す。また昨年12月、同社では熊本市にお墓参りの絵本「ゆらちゃんのおはかまいり」を熊本市内の小学校・幼稚園に寄贈。熊本市から感謝状が贈られた。荒木社長は「お墓参りの大切さを多くの人に伝えると共に、お墓や墓地に関する正しい情報を発信しながら地域に貢献できる企業を目指したい」と話している。



熊本市健軍出身、1972(昭和40)年10月10日生まれ。39歳。国際航空専門学校卒、航空機整備会社就職後、24歳で熊本市あらき石材に入社。06年4月より現職。趣味はツーリング

合志市企業等連絡協議会

会長に大澤・西日本エレクトロニクス工業社長



▲会員51人が出席した2012年度総会（会場＝ユーパレス弁天）



松本 繁
副会長

大澤 宏一
会長

山田 敏雄
前会長

高木 健次
県議

池永 幸生
合志市議会議長

荒木 義行
合志市長



▲総会後の交流会では終始にぎやかに歓談しながら交流した

合志市企業等連絡協議会（会長＝山田敏雄・合志技研工業(株)社長、会員企業72社）は5月17日、同市野々島のユーパレス弁天で2012年度の通常総会を開いた。会員51人が出席した。はじめに山田会長が「協議会を通じて横の連携を強化していこう」とあいさつ。その後、11年度の事業報告および収支決算を審議・承認し、役員改選では会長に大澤宏一・西日本エレクトロニクス工業(株)社長を選出した。総会後の交流会で大澤会長は「地域経済の先行きは不透明だが、会員企業で知恵を出し合い、活力ある合志市の育成に力を尽くしたい」と抱負を述べ、松本繁・協議会副会長（松本実業(株)社長）による乾杯の音頭で祝宴に移った。

システムシンキング

（株）はちえんの坂田誠社長を招きFBセミナー



▲当日は73人が参加



坂田 誠
（株）はちえん社長



坂田 眞佐子
社長



▶講演する坂田誠社長。全国各地で150本以上のFacebookの講師実績を持つ



▲講演の後に開いた懇親会。終始にぎやかに談笑し、参加者同士親交を深めた

ICT活用コンサル、システム開発などの(株)システムシンキング（熊本市東区健康本町、坂田眞佐子社長）は5月22日、桜の馬場城彩苑の多目的交流施設で、Facebookに関するセミナーを開いた。当日は73人が参加。坂田社長が「当社初開催のセミナーとなる。皆さまと有意義な時間を共有したい」とあいさつ。ソーシャルメディア教育・コンサルなどを行う(株)はちえん（岐阜県）の坂田誠社長が招かれ、「日本の半分のFBセミナーに出なくて済む！Facebookの成功真理の徹底基礎セミナー」と題し講演した。Facebookで成果を出す原理、ソーシャル時代の顧客との関係性構築などを解説。参加者は真剣な表情で講演に聞き入っていた。

5月13日にライブデイナーショー

健軍の杜 木斛邸

(株)わくわくコーポレーションが経営する熊本市東区健軍4丁目(熊本市東区若葉2丁目、桑原俊孝社長)の飲食店・木斛邸は5月13日、ライブデイナーショーを開催した。

これは木斛亭が年数回開催するライブデイナーショー企画の一つ。名称は「木斛邸美食倶楽部」会場は同店舗内のライブスペースで、ライブ演奏と食事を楽しめる企画となっている。当日はソプラノ歌手の森崎ひとみさんと菅野大地さんの歌と演奏と、ゲストにハンドフルート奏者高山大智さんの手を楽器にしたユニークでアイデア

アあふれる演奏を楽しんだ。当日は55人が来場した。

木斛邸は、築100年を超える、伝統工法で建てられた本格的な木造民家で、戦前商家として栄えた水野家の旧邸として有名。昭和60年小代焼の窯元近重治太郎氏の工房兼住まいとして現在の東区健軍4丁目に移築され、昨年、伝統的な日本家屋の持つ味わいを堪能できる飲食店「木斛邸」としてオープンした。床面積約600㎡を超える豪邸で、和風建築の伝統美を色濃く残す県内では数少ない木造古民家の一つ。

▼澄み切った歌声で観客を魅了したソプラノ歌手 森崎ひとみさん



▲手を自在に操り演奏するハンドフルート奏者高山大智さん



▲寛いだ雰囲気の中演奏を楽しむ来場者



▲息の合った演奏をみせるキーボード菅野大地さん



▶当日は音楽ファン55人がライブ会場に足を運んだ

約50人が集い、第10回交流会

異業種交流会・火の国会

地元・県産酒の火の国酒造を応援する異業種交流会の火の国会(会長＝木村昭一・(有)染元の大総会長)は5月11日、同市東区新生2丁目の琉球居酒屋なんくるで第10回交流会を開いた。

当日は企業経営者や自衛隊関係者など約50人が出席。同会の木村会長は「地元県産酒を守ろうと立ち上がった重光社長と火の国酒造を応援する会として、

いさつ。続いて火の国酒造(株)の重光克昭社長が「今年には地元でできた米を使ったお酒も発売することができました。これからもおいしいお酒をつくることで皆様に恩返しできるように頑張っていきたい」とあいさつ。当日は自衛隊熊本地方協力本部の山崎寿勝・援護課長兼地域看護センター長の乾杯の発声で火の国酒造の清酒で乾杯。火の国酒造の清酒や焼酎などを楽しみながら参加者らで交流を図った。

少しづつでも応援の輪を広げてほしい」とあいさつ。



▲東区新生2丁目の琉球居酒屋なんくるで開いた火の国会の第10回交流会



▲同会の会長大木村昭一(有)染元の大総会長



▲当日は火の国酒造の清酒で乾杯。囲みは乾杯の発声を行った自衛隊熊本地方協力本部の山崎寿勝・援護課長兼地域看護センター長



▲抱負を述べた重光克昭(火の国酒造)社長